（仮訳）

プレス・リリース

2023年2月16日

金融安定理事会は、分散型金融の金融安定上のリスクを評価

金融安定理事会（FSB）は、本日、分散型金融（DeFi）の金融安定上のリスクに関する報告書を公表した。DeFiという用語は、暗号資産市場において、分散型といわれる方法で伝統的金融システムの一部の機能を再現することを目的としたサービスを説明するために一般的に用いられるが、実際の分散化の程度はサービスにより大きく異なる。

本報告書は、2月のG20財務大臣・中央銀行総裁会議に提出されたものであり、結論としては、DeFiがサービスを提供するプロセスは、多くの場合、新しいものであるが、DeFiが果たす機能やさらされる脆弱性の点では、伝統的金融と大きく異なることはないとしている。DeFi固有の特徴は、これらの脆弱性の一部（例えば、運用上の脆弱性、流動性と満期のミスマッチ、レバレッジ、相互連関性）を、時に伝統的金融とは異なる形で発生させる可能性がある。DeFiの多くを支える暗号資産には固有の価値がなく、非常に価格変動が大きいという事実は、最近の事件が示すように、これらの脆弱性が顕在化した時に、その影響を大きくする。

これらの脆弱性が金融安定上の懸念にどの程度つながりうるかは、主に、DeFi、伝統的金融及び実体経済との間の相互関係及び波及経路に依存する。これまでのところ、これらの相互関係は限定的である。しかし、DeFiエコシステムが大きく成長した場合、波及効果の範囲は拡大するであろう。本報告書では、DeFiの脆弱性や波及経路を監視するために使用できる指標を特定している。

これらの知見に基づき、FSBは以下の追加作業を実施する。

- 資産のトークン化、すなわち金融商品又は実物資産のデジタル表現（トークン）の作成、の進展と影響を分析する。これは、同分野の発展が、暗号資産市場/DeFi、伝統的金融及び実体経済との間のつながりを強める可能性があるためである。
- 基準設定主体（SSBs）及び規制当局と協働して、DeFiとの相互連関性を測定及び監視するためのデータギャップを埋めるためのアプローチを検討する。
- 暗号資産関連の活動の国際的な規制に関するFSBの政策勧告案が、DeFi固有のリスクを認識し、ルールの適用と執行を促進するために、どの程度強化される必要があるかを検討する。
- SSBsと協調して、どのDeFi活動及び事業体が規制の範囲内に該当するか、又は該当すべきかを決定するために、法域をまたぐ規制の範囲を検討する。それはまた、そのような事業体に対して、追加的な健全性及び投資家保護の要件を課すか、又は既存の要件の執行を強化するかの検討も含む。